

## 平成18年度 第2回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

日 時 平成19年3月27日(火) 15時00分～17時00分  
場 所 米子ワシントンホテルプラザ 2F「ぼたん」の間  
出席者 委員： 金田 昭, 副井 裕, 藤田教正, 森脇 孝, 矢末 誠, 山口和彦

本 校： 校 長 水島和夫, 副 校 長 小田耕平  
教務主事 香川 律, 学生主事 山藤良治, 寮務主事 竹中敦司  
事務部長 松本 勤, 地域共同テクノセンター長 足立新治  
庶務課長 渡邊正則, 会計課長 阿部秀一, 学生課長 山根茂雄  
企画室長 河村 昇, 庶務係長 山本一夫

テーマ 「自己点検評価について」

### 1 開会挨拶

校長から、開会に当たり、出席のお礼及び今回の評議員会においては、本校の平成19年度大学評価・学位授与機構機関別認証評価受審に際しての提出資料（自己評価書）案について、ご意見をいただくこととした旨の挨拶があった。

また、引き続き、本校の近況について、新年度からの事務部2課制への移行、平成19年度入学者選抜試験の終了、平成19年度入学式の挙行、今後の地域貢献、地域との連携協力推進のための鳥取県産業振興機構、米子市との地域連携協力協定、今年1月の財団法人米子市教育文化事業団との連携協力協定締結、また、商工中金米子支店との協定締結予定等について報告があった。

### 2 議事進行《副井議長》

#### (1) 進行方法等について

副井議長から、本日の会議の進行方法等について、小田副校長へ説明依頼があり、小田副校長から、本日の会議のテーマについて、機関別認証評価の目的、評価の基本的方針、評価の方法、評価の実施、評価に至るスケジュール等について説明あり、その後、本日の議事進行方法について、4つのセッション① アンケート結果の評価等、② 基準4 学生の受入、基準5 教育内容及び方法、基準6 教育の成果、③ 基準7 学生支援等、基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム、④ その他の基準) に分けて進行願いたい旨の説明及び依頼があった。

#### (2) 議事進行

##### アンケート結果の評価等について

副校長から、資料（パワーポイント及び配付資料併用）に基づき、6つのアンケート調査結果について以下の説明があった。

#### i 自己達成度評価

- ① 本科卒業予定学生（5年生）に対する教育目標の達成度について

- ア 「学び習得した知識を適切に表現し、活用することができるか」「実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができるか」の設問に対しては、「十分できる」「一部できる」が60%強、「ほとんどできない」「全くできない」が概ね30%となっている。
- イ 「関心ある分野について継続的に学習していくことが出来るようになったと思うか」「地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができるようになったか」また、「日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解できるようになったか」「自らの考え等について分かりやすく関係者に説明できるようになったか」の設問に対しても、「十分できる」「一部できる」が60%強、「ほとんどできない」「全くできない」が概ね30%となっている。
- ② 専攻科修了予定学生（2年生）に対する教育目標の達成度について
- ア 「工学に関する様々な問題等を自ら発見することができるか」「発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができるか」の設問に対しては、「十分できる」「一部できる」が67%、「ほとんどできない」「全くできない」が概ね30%となっている。
- イ 「自らの専門的・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができるか」「持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができるか」「問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができるか」の設問に対しては、「十分できる」「一部できる」が78%、「ほとんどできない」「全くできない」が概ね20%となっている。
- いずれも、本科生より「十分できる」「一部できる」の割合が上回っている。
- ウ 「専門的な英語の文献等を読み、理解することができるか」については、「十分できる」「一部できる」が56%となっており、他の設問に比べ、「十分できる」「一部できる」の割合が低くなっている。
- ii 企業から見た教育目標達成度評価
- ア 学生に対する企業の評価は高く、本科生についても「十分できる」「一部できる」という割合が大きくなっている。ただし、「本校の卒業生は、学び修得した知識を適切に表現し、活用する資質を備えているとお考えですか」「本校の卒業生は、自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる資質を備えているとお考えでしょうか」の設問で、「全くできない」が8%あり、この辺りが低い評価となっているものもある。
- イ 専攻科生に対する評価は、「十分できる」「一部できる」でほぼ100%となっており、本科生に比べ専攻科生の能力が高いと企業は見ている。
- ウ PRに関する設問については、十分でないと評価されている。
- iii 卒業生（過去3年間）の評価
- ア 現在の職種は、企業関係者が概ね50%、学生が34%、その他は主婦等となっている。学生が回答者の中に多いことを把握しておく必要がある。
- イ 「本校は対外的に認知されていると思いますか」の設問で、「あまり知られていない」が54%であるのは、PR不足の面もあると考えられる。
- ウ 「卒業、修了してから役に立ったとお考えの項目を次から選んでください」の設問に対し、多い順に専門座学 17%、卒業研究 13%、実験実習 12%、インターンシップ 11%、課外活動 11%となっている。
- エ 「本校がより充実すべきとお考えの項目を選んでください」の設問については、「語学教育」「資格取得」の割合が大きくなっている。

【質疑応答】（○印：各委員，●印：本校，以下同じ）

- (卒業生に対するアンケート項目、卒業(修了)して役に立ったと考える項目と本校がより充実すべきと考える項目のうち「語学教育」と「資格取得」の割合がそれぞれ3%と18%、3%と12%となっていることに関して) この辺も何かやっぱり共通点みたいですね。これからの課題でしょうか?
- 今発言された点について、これからの考え方というのは、語学の資格を取ることになれば、語学というのは、英語でしょうか? そこまで詳しいアンケートはしてないんですか?
- 全部英語です。ほかの高専の例によれば、TOEFLを受けさせて、それが何点以上でないと卒業させない、あるいは修了させないということをやっているところもあります。将来的には、本校もそのようなことを検討する必要があると思っています。
- 昨年、整備したe-L教室は、ただ設備が整っただけではなくて、ソフトの面でも自学・自習ができるものを導入しています。例えば、TOEFL対策の最新バージョンのソフトも入っていますので、これを学生たちがしっかり活用するようになれば、専攻科の修了要件の1つに、TOEFL400点以上といったようなことを盛り込むようなこともできるかと思います。
- ただ、高専によっては、他の科目はいい、すごくエンジニアリングはできるんだけど、英語の1点で、例えば、TOEFL何点としたために修了できない、せっかく就職も決まったんだけど、修了、卒業ができない学生が出てきているということも聞いています。この辺のところも勘案しながら、将来的に英語力を伸ばしていく方を英語の先生も含めて検討していきたいと思っています。
- 教育目標の達成度という点で、企業の側としての評価はどのようなのでしょうか? 就職率がいいというのが企業の評価なのでしょうけれど、学生のこの評価が、これから就職して社会人になるという未知な部分に対し、自信がなく後悔しての評価なのか、それとも厳しく評価しているのか、その辺が気になりますけれども、どうなのでしょう?
- 確かに、達成度という言葉で書いていますけれども、企業が思う達成度と学生が思う達成度とは、視点が少し違っていると思います。ただ、学生の方は、自分自身を評価している訳ですから、やはりかなりシビアになる。点としては、辛くなるのが普通だろうと思います。企業の方は、逆にちょっとプラス側に傾いているんじゃないかという気はしています。
- 率直にこのアンケート結果を見させていただいて、5年生と専攻科2年生の教育目標の達成度の評価が全然違うなあという印象です。専攻科を修了する学生は、評価の内容についても、それなりに考えているのかなと思います。
- 企業側からの評価を見ると、高専の学生は、専門的視野、意識が非常に高いという結果が出ています。大学と比べたときにどうかというのは、よく分かりませんが、高専の学生の特徴がここに表れているという感じがします。これを実際、現場から見ても、やっぱり非常に高専の学生ってすごくいいなという感じがします。本当によくやっておられるのだろうと思います。
- それから、PR不足だなというのは、確かに感じられます。これを、今後どうやっていくかは、大きな課題かもしれません。新聞にPRされることも含めて、高専で教育・研究している内容について、例えば、一般に公開されている卒論発表会でも、何が重点的であるかをもう少し見えるような形にさせていただくと、一般の方や企業の間も、それなりに理解できるという感じがします。
- また、インターンシップの必要性というのは、私は以前から言っていますが、非常に重要じゃないかなと思っています。
- やっぱり、就職活動では、専攻科の学生さんから売れていくような感じでしょうか? 専攻科の

評価がちょっといいように思いますけれど。

- この前、企業の方と話をしていましたら、どうしても就職ということになると工業高校と高専とがよく比べられて、高専の学生さんみたいに意欲を持った卒業生を工業高校から出してくださいということを言われました。就職してからの意欲というよりも、もともとの意識というか、それが高等学校卒業生とは違うというようなお話があるんです。卒業予定学生の自己評価を見ると、何かもっと、自信が持てるような評価であっていいような気もするんですけども。そのあたりは何か聞き方、問い方を変えられると、違う自己評価が出てくるのかなと思ったりもします。
- 今回、初めてこのアンケート調査を行った訳ですけども、こういった達成度評価は、なかなか評価としては難しい部分があります。ただ、ほとんどできないと回答した人は、どういうところができないのかといった、例えば設問の細分化ですね、そういったことが必要かもしれません。
- 企業からの評価の部分で、やっぱり卒業生と専攻科修了生とでは戦うステージが違うんだなという感じを受けました。卒業生の場合は、例えば、「実験等で得られた結果について、既に学んだ知識をもとに、分析し、報告することができるか」という設問で、「十分できる」と、企業の皆さんは、7割が思っておられるんですけども、専攻科修了生の場合は、「一部できる」が、100%で、「十分できる」というのが、1人もないという結果になっています。これは、通常、逆じゃないかなって思うんですけども、本当のところは、当然のことながら、専攻科学生の方が能力的にはより深いものがある訳ですから、専攻科は、もっと専門深くということが求められて、より競争も厳しくなるということだろうと思います。
- （専攻科に在学して高い能力を求めることについて）今年の場合、3月に専攻科を出て、学位を取得したのが、20人おりました。そのうち、9名が大学院の方へ行っております。大阪大学大学院へ2人、長岡技科大に2人、九州工大も2人行っていますし、鳥取大学のお世話にもなっております。例えば、本科を卒業して、工学部の3年次に編入学し、その後、その工学部の修士課程へ進学することも考えられますけれど、現在、どこの大学院も間口が広がっているという状況にありますから、専攻科を出て、その後、さっき言ったように、大阪大学大学院など希望の大学院に進むという道もとてもよいと思います。また、普通科高校を出て、大学入試のために、必死に受験対策をやって入学し、修士課程まで進むということであれば、高専に入って、専攻科まで一環した教育を受け、その後、希望する大学院へ行く方が随分いいんじゃないかとも思います。これからは、そういうことも本校の売りにしていく必要があると思っています。

基準4 学生の受入

基準5 教育内容及び方法

基準6 教育の成果

副校長から、事前配付資料の基準4、5について概要説明があり、その後、教務主事から、基準6について、最新のデータによる席上配付資料に基づき、以下の説明があった。

i 入学者選抜検査状況について

① 本科の状況について

- ア 平成19年度入学者選抜検査における学科ごとの倍率は、1.65倍～2.93倍、平均で2.25倍となっている。ただし、志願者数の確保はできているものの志願者数450人に対

し、合格者数が396人となっており、実質的には、ほとんどの学生が入学可能な状況となっている。

イ 質の高い学生を獲得するためには、いろいろな工夫も必要であるが、同時に、今、なぜ「ものづくり」なのかについて、志願者に説いていくことが必要である。

② 専攻科の状況について

すべての専攻において、定員以上の志願者数となっている。また、学生自身の高学歴希望もあるが、企業の方でも、より高度な能力を持つ学生を求めている状況にあり、定員以上の学生を入学させている状況になっている。

ii 単位取得率・進級・卒業・修了等の状況について

① 単位取得率、留年、休学、退学者数について

ア 1年生（平成18年度入学生）の留年、休学、退学者数が多くなっている。留年者も増加傾向となっており、入学者の特性が少し変化しているように思われる。不振者に対する学習支援の強化、ものづくりに対するモチベーションを低学年時から高めていくなどの工夫が必要である。

イ 高専の修業期間5年間のうちで、3年生の時期は、中だるみが出て進路変更の多いことで知られているが、単位取得率を見ると、学校として支援を強化してきた成果が出てきている。

② 進級率について

進級率も、1年生が低下しており、これらの状況を踏まえ、4月から、教員及びティーチング・アシスタント（専攻科生）による手厚い支援を計画している。また、学校現場では、集団生活不適合等の心の問題を抱える学生が増加している状況があり、クラス全体への学業面での影響を大きいことから、これらの問題への対応も必要である。

③ 資格取得に伴う単位認定者数

本校では、英語の自由選択科目として、「実用英検」、「工業英検」及び「TOE I C」について単位認定を行っている。数年前まで、実用英検、工業英検では、受験者数が多いということで、協会から表彰を受けた経緯もあるが、資格取得の在りようが問われてきており、特にコミュニケーション能力に重点が置かれるようになって、受験者数が低下している。そういった状況を踏まえ、e-L教室を整備し、TOE I Cに代表されるようなコミュニケーション能力の強化を考えている。

【質疑応答】

- 保護者の立場で質問させてもらいたいと思います。1年生の留年者に関する説明がありましたが、子供の資質を引き出すのが、一番問題になっている気がしています。いろいろと対応は考えておられると思うんですけども、もうちょっと具体的な内容、例えば、もともと中学校までの学力が伴わなくてついていけないのか、それとも入学当初からの学校生活がだらけてしまっているのか、その辺はどうでしょう？
- 今年度の入学生については、アンケートをまだやっておりませんが、18年度の入学生については、アンケートをやっております。その結果で気になるのが、以前の学生は、自分は、普通高校、例えば受験校にも行けるけれども、それとは関係なく、高専に来たいという学生が必ず多くいました。最近では、それが非常に少なくなっております。もう少し率直に言うと、県立高校と比較し、受験対象校の序列の中で米子高専を選んでいないんじゃないかと思われる学生が非常に増えております。したがって、その学生たちが、まず、学校の教育目標自体をどの程度意識し、日ごろの授業を受けているのかということも見ていく必要があります。同時に、学習教育目標に照らして、どういう授業をこの5年間でやっていくのか、高専で何を学ぶかのモチベーション

が薄れてきていますので、1年生のうちから分かりやすく明確に示してやるような授業を設ける必要もあります。

それから、先ほど言われた入学生の学力低下は、どこの高専でも起こっております。TA等を活用した学習支援体制を充実させて対応していこうと考えております。

- 卒業、修了率の見方ですけれども、例えば、さっき御説明のありました平成18年度の機械工学科72.73%ということは、40人の入学者であれば、そのうち、29人がストレートで卒業し、残りの学生は、その年には卒業しなかったということになりますね。
- これは、先ほど、もう少しこのデータを詳しく調べてみななければいけないと言った訳ですけど、やはり15才~20才という時期は、一番多感な頃ですので、その当時にクラスでいろいろ問題がありますと、どうしても進路変更などに現れやすいという状況もあります。
- 3年間の留年生のデータを見ると、17年度は、3年生の留年者が10人、16年度の21人に比べてよくなっています。同じ17年度の4年生の留年者は7人ということですけども、過去においては、4年生という年齢は、結構留年者が多かったように思いますけれど。
- 留年生には、4月に話を聞きますけれども、4年生で留年するというのは、3年生のときに、本人は進路変更したい、保護者は残り2年間を頑張ってもらいたいという思いに違いがある場合で、結果的には進級し、4年生の前期あたりで、やはり、自分はこっちの道に行きたかったという思いが強くなるという学生が多くいるようです。結局、今までは3年生でぽんと抜けていたのが上に上がっていつているという現象が起こっています。
- 単位の未修得に関しては、何単位かまでであれば、進級できるといった救済措置があったと思いますけれど、それ以前に、もう進路変更したいとか、そういう障害となる意思があるということでしょうか？
- 入学者選抜状況に関して、入学者が定員を大幅に超えるとか、下回る状況になっていないかという意見がありますけれども、平成19年度の専攻科入試で入学者が定員よりも20名多いという結果は、例えば、文科省が定員オーバー何%までとか、そういう基準が校長に対して課せられているのでしょうか？ そういうのは全くないですか？ 各学校の判断で行って良いのですか？
- 現時点ではありません。ただ、大学では1割以上超えると今後何らかの措置がとられるということを言われているというふうには聞いております。
- 大学では話題になっていますね。ただ、どこに落ちつくのかちょっと分かりませんが、やはり私立の入学者をそれで圧迫してしまうというようなことが原因じゃないかなと思います。
- 留年・退学の原因は、何ですか？
- 成績不振が一番大きいようです。入学者には、米子高専は、普通高校に比べ校則も厳しくなく自由であるというイメージをもって入学してくる者も多いようですけれど、現実に入學してみると、自分のイメージと違い、実際求められるものとのギャップの中で成績不振に陥るということもあるようです。それから、心的な問題を抱えて、修学がおぼつかなくなるような学生もいます。
- これは人ごとではなくて、大体、大学も同じような傾向になってきつつあります。それから、

やはり工学系に対する全体の流れでしょうか、若い人が工学系を志向しない。ものづくりとかに向かないで、もうちょっときれいな方向に行く。そういう傾向があるようです。大学でも、休学とか退学とかいうのをいかに減らすかというのは大きな課題です。

- 進級等の状況で、推薦入学の方と学力テストで入られた方に何か違いはありませんか？
- 大学における推薦入試もいろいろな方法があつて、AO入試という自己推薦のような方法で私ももやっていますが、両極端に分かれます。非常に意欲があつてできる学生と入ってみただけで基礎学力がなくてついていけないという学生がいます。
- 高専の推薦入試は、結構厳しい基準が設けられています。平均点数が5段階評価の4以上ということで、中学校によっては、ものづくり志向の生徒がいるけれども、ちょっと基準に足りないから残念だということが結構あるようです。推薦で入学してきた学生は、高専でものづくりをやりたいという意欲が十分ある訳ですから、今年度の入試から、推薦枠を従来の3割程度から4割程度にまで増やし、そういった学生を多く受け入れるようにしたという経緯があります。

基準7 学生支援等

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

副校長及び学生主事から、資料の基準7、9について、以下の説明があつた。

- i 基準7-1-③ 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受験に関する学習支援等）について
  - ア 資格試験等のデータによれば、学生総数に比較し、資格試験等を受験した学生、資格等を取得した学生は共に少ない。
  - イ 学校として、どう取り組んでいくかは検討を要するが、これまで積極的に資格取得を奨励してきたとは言えない。前出の卒業生に対するアンケート結果は、これらの点が反映されていると思われる。
- ii 基準7-2-④ 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているかについて
  - ア 就職、進学、進路指導は、4年生、5年生の2年間かけて行っている。昨今の就職戦線が早まっている状況においては、4年生あたりでのケアが重要となっている。
  - イ これまで、3年生で適性検査、4年生で就職・進学の模擬試験、就職セミナー、5年生の最初に三者面談をやっている。
  - ウ 今年、新5年生を対象とした「進路面談会」を企業92社、大学3校の参加を得て、3月25日に実施した。実施理由は、高専独自の状況、例えば、卒業生のほとんどが推薦によって決まり、内定がもらえたところに就職するという実態があり、受験するまでに十分な情報を得て受験することが必要となること、また、進路面談会に参加し面談することで、面接試験等の対策にもなる等
    - なお、学生が、技術者としての視点ではなく、一般的な知名度によって左右された点等は、今後検討を要する。
- iii 基準7-1-② 自主学習環境（図書館等）が整備され、効果的に利用されているかについて

- ア アンケートによれば、講義室に関しては、やや使いにくいという結果になっている。意見の中には、冷暖房の不満などが含まれている。
- イ 実験実習室に関しては、使いやすいという結果になっている。ある程度の環境が整っていると考えられる。
- ウ 情報処理センター・端末室に関しては、余り利用していないという結果になっている。インターネットが可能なパソコンを自分で保有していることや利用可能時間帯が理由と思われる。
- エ 図書館に関しては、比較的使用しているという結果になっている。利用している内容は、レポート作成や資料収集などとなっている。利用時間については、平日が多く休日にはほとんど利用していない。学習に必要な図書の充実度については、7割の学生が満足している。教員研究室にある図書の検索がうまくなされていないのかも知れない。
- iv 基準9の各観点（教育活動の実態を示すデータ等が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。自己点検評価が適切になされているか。学外関係者の意見が適切に反映されているか。等）について
- ア この評議員会等における意見を改善等に結びつける。

#### 【質疑応答】

- インターネットができる環境についてですけれども、現在の端末室等が利用時間帯を限定されるというのであれば、どこからでも利用できる、例えば、教室でもできるということになればと思います。
- 方法としてはいろいろあると思います。例えば、無線LANとかが考えられます。ただ、そのための設備やコンセントの設置、その維持費などいろいろな課題があります。
- 先ほどのe-L教室に入れました英語の学習システムですけれども、ネットワーク対応となっていますので、基本的な機能として自宅からエントリーすることも一応可能なシステムとなっています。ただ、学校のネットワークシステムに外部からアクセスするということになれば、セキュリティ上の問題が発生します。
- また、英語の学習システムでいうと、ユーザーのエントリー数に応じてライセンス契約していますので、そのエントリー数がさらに増えることになれば、契約料が増加するといった問題もあります。それ以外にもサーバー等の能力の問題などがありますから、それらを含め、総合的に考えることが必要となります。
- 就職のことについてお伺いします。進路指導を4年生の終わり、つまり、5年生に上がる前に行い、5年生の5月頃にはもう決まっている学生がかなりいて、内定の決まる時期が早くなる傾向のようですけれども。県内に高専の卒業生を残したいという、地元企業の気持ちからすれば、前の年にもうエントリーしなるとなかなか卒業生をいただけないという感じがします。学生の85%ぐらいは県内の出身者ですから、高専で学んだことを地元で活かしてほしい。高専には、何かもうちょっと学生を県内に残す方法をお願いしたいなあと思っています。逆の対策になってしまいますけれど、進路指導を遅くするとか・・・。内定が早くなると、5年生になれば、後は卒論だけで終わってしまうという感じを受けます。県内に優秀な人材を確保したいというのはもう当然なことですし、何かやはり早過ぎる感じがします。
- 特に今年度、来年度あたりは「2007年問題」の関係で非常に早くなっているということも



あると思います。また、数年すると少し状況が変わるということも考えられます。今回の進路面談会には、振興協会の会員の企業の方にもすべて案内を差し上げまして、おいでいただいた企業もかなりありますので、従来よりもそういう振興協会の会員企業の方等については、学生が知る機会が増えたのではないかとこのふうには思っております。

- 進路面談会で、先ほどテレビとかでよく見かけるような企業に傾く傾向があるということを行いましたけれども、この逆も実はあります。以前は、東証一部とか、そういったところに大体決めていた学生が、面談会に参加し、地元企業への関心を示した学生が多数おりました。保護者や学生が直接企業の方からお話を伺うような、そういう機会を積極的に用意すべきであることは必要だと思います。そうすれば、就職をして、3年ぐらいのうちに2割ぐらいは辞めていくという卒業後の少し好ましくない状況の改善にもなっていくのではと思います。
  
- 私どもの企業も進路面談会に参加させていただきましたけれども、かなり暇だったと担当者が帰ってまいりました。やはり県外企業が多かったものですから、3人ぐらいはお話しさせてもらい、いろんな状況説明はさせてもらったようですけど、具体的な話にはならなかったということでした。これに懲りずに今後も継続して出たいと思っております。  
実は、進路面談会に合わせるつもりで、振興協会のカタログ集でもないんですけど、小冊子みたいなものを作ろうと考えていたんですが、結局間に合いませんでした。これから来年度の予算組みをして作るつもりですけども、作るタイミングとどこに刷り上がりのものを持って行き、どこに出すのが一番いいかを教えていただきたいと思います。進路懇談会でいいのであれば、3月でいいのか、それとももっと前から何か目に触れる機会があるのか、あれば、そのタイミングに合わせて作ろうと思っています。各社のカタログよりももちろん簡単で、1枚ものくらいで採用実績から採用予定を載せたようなものにしようと思っています。それから、インターネットのサイトへの案内も作ろうかと思っています。これも、どういうタイミングで出せばよいかなどと思っています。
  
- 進路指導の担当の先生は、従来から5年生の担任の先生ということになっています。ですから、企業の資料とかを持ってきていただくのは、進路面談会の場でももちろんいいんですけども、その前に、進路指導の担当の先生の手へ渡るとというのが一番適切なのではないかと思います。今年度から5年生の担任の先生が進路指導を担当するのはいいけども、4年生については私は知らないということでは困りますので、5年生の担任の先生には、4年生の進路についてもしっかり見ていただくということにいたしました。今後は再来年の卒業生のための資料でも、該当する学科の5年生の担任の先生のところへ持ってきていただければ対応ができるようになります。
  
- 振興協会と学校への要望なんですけれども、最近は、少子化で子供が1人か2人か、多くても3人くらいでして、当然親としては地元に残ってほしい気持ちがあります、もう少し、今回の例からしても、振興協会会員企業のための独自の説明会があってもいいんじゃないかなと思うんです。もう少し積極的に子供たちに、親もそうですけども、働きかけていただかないと、この状況はいつまでたっても変わらないんじゃないかなと思うんですが。保護者から見て、地元の方の何か熱心が足りないかなと思うときがあります。
  
- 積極的に都会の企業の方も来られているようですので、地元企業の方も、もっと高専へ行かれたらいいのではないかと思います。

副井議長から、これまでに説明のあった基準等又は配付資料全体で意見があれば、発言願いたい旨の依頼があった。

【質疑応答】

- 今年度から、地域システムの中で、大学や高専など教育機関の持つ設備やノウハウを活用し地域の若手技術者を育成しようという文部科学省と経済産業省の事業ができました。私ども鳥取県産業振興機構は、いろいろなところで、いろいろな事業の管理法人をやっていますが、米子高専の足立先生から、今回の事業に対して提案しようという話がありました。振興機構としては、全面的にそれに協力したいという気持ちでおります。同時に、中核的人材育成事業というものもやっております、これも香川先生に入っていていただいて協力いただいております。これからの社会人教育も含めて、いろいろな面で協力しながら全体のレベルアップを図っていきたいという県としての希望も持っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。
- 基準3ですけれども、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているかという観点の部分で、大学でも、この教育の評価というのが結構難しく苦しんでいるところです。分析結果とその根拠理由のところ実際に適正な評価が行われているというふうに書かれていますけれども、現実のところ、うまく評価されて、何らかのインセンティブを与えるということが行われているのでしょうか。教員の評価というのは私自身も苦しんできたところでして、適正な評価というのは高専はどうされているのでしょうか？
- 教員の教育活動の評価というのは、資料に記載しているとおり、学生による授業アンケート評価、それから高専機構が実施する教員の表彰制度というのがあります。この表彰制度の評価方法は、教員と学生による評価と自分自信の評価という3つの基準で実施します。それと、いわゆる自分が申告する、いわゆる業績評価というのがあります。

インセンティブの点では、授業評価のよかった先生、課外活動、地域貢献などの業績を上げた教員に対して教育研究費を配分するといった方法でインセンティブを与えています。逆に言えば、そういうふうなところまでしか今はできていないとも言えます。実際のいわゆる教員評価というところまでには至っていない、そこに踏み込むのはかなり難しいというふうに私たちも思っています。
- 校長先生の裁量で配分が可能な経費もあるのですか？
- 校長裁量経費というのがあります。また、教育研究活性化経費という経費によって、先ほどの教員、学生等による評価や、公開講座あるいは出前講座等で地域貢献をしたということに対する評価、科学研究費補助金への応募などのインセンティブを与えています。地域貢献の関係では、地域との共同研究や技術相談に応じるといったことに対しても行っています。実際、これらのインセンティブによって、いろいろやっておられる先生については、かなり教育研究経費が積み上がってきていると思っております。

ただ、評価結果の給与面への還元といったところまでは達していない。そういった面では、まだ総合的なものというところまでは至っていないというのが現状です。
- 評価は、評価すること自体が問題ではなくて、評価であらわれてきた数字をどういうふうに考

えるか、例えば、60%が理解しているという数値に対して、果たして60%でいいものなのかどうかという点、あるいは、なぜ60%なのかということが大切だと思います。評価自体が問題ではなくて、こういうことを検討していく方がより重要だというふうに考えて、ご議論を聞いていましたけれども、より一層この点を理解し、また、表れた数字で満足するのではなくて、より数字を伸ばすようにしていただきたいと思います。

○ もう1点だけ質問いたします。資料の中に2カ所ぐらいで女性教員の数が不足しているために増やすべきであるというようなことが書かれていたと思いますけれども、高専機構における基準のようなものがあるのでしょうか？理由としては、女子学生のパーセンテージが20%ぐらいだからどうというような理由づけで書かれていたと思いますが。

● 高専機構の中期目標、中期計画の中で具体的な人数が上がっておりますが、恐らく8名であったのではないかと思います。本校は6名ということですので少し足りないという状況です。

## 2 閉会挨拶

校長から、閉会に当たり、長時間に亘り、貴重な意見をいただいたことへのお礼及び副井議長への3年間に亘る議長就任に対する謝辞があった。